

輪島市における防災研修会報告

1. はじめに

1.1 活動実施経緯

2007年5月上旬にNPO国境なき技師団(以下EWBJ)防災教育部の活動の一環として、早稲田大学の濱田教授から、輪島市の里統一郎先生を通じ、輪島市教育委員会に2007年3月25日発生 of 能登半島地震で多大な被害を出した輪島市において防災教育活動を行いたい旨の依頼を行った。その際に示された計画案は、EWBJの理事およびEWBJの支援する早大防災教育支援会(以下WASEND)及び京大防災教育の会(以下KIDS)が合同で6~7月の中で5日間、輪島市内の小中学校を訪問して児童生徒に防災教育活動を実施する計画であった。

当該計画書に示されていた時期は、児童生徒の心のケアの面から実施は時期尚早であること、震源地に近い小中学校は入学式・始業式が遅れたこともありスケジュールに無理があることから、輪島市教育委員会から小中学校の夏季休業日中に学校行事や公民館活動の一環、また教職員や公民館主事の研修の一環として実施する計画(案)が提案され、今回ワークショップ形式にて防災教育活動を実施することで双方合意し、実施するに至った。

1.2 活動目的

EWBJは、防災教育プログラムの向上、学生の支援を通じて防災教育の普及を目指す。

KIDS, WASENDは、輪島市における防災教育活動を通じ、ネットワークの拡大を図るとともに、活動を社会教育分野へ展開・発展させる。

輪島市教育委員会は、防災教育を学校教育・社会教育・家庭教育の一部として位置づけ、地域教育力向上に結びつける。

(今回のworkshopを契機に、市民に防災の重要性を再認識してもらうとともに、学校や公民館等は、そのknow-howを取得し今後の活動を展開する一助とする。)

1.3 事前準備

各ワークショップの担当者および内容の決定、進捗状況の確認を行うために以下に示す日程で全体ミーティングを3回に渡って行った。またワークショップ毎で適宜必要に応じてミーティングを行い、本番に備えた。

第一回 2007年7月6日(金)、第二回 2007年7月13日(金)、第三回 2007年8月8日(木)

各ミーティングの内容に関しては議事録を参照されたい。

2. 輪島市防災教育研修会の概要

2.1 活動記録

(1) 活動場所

石川県輪島市内の公共施設

右図参照



(2) 日程

2007年8月16日(木)～2007年8月20日(月)

日時		活動内容
8/16(木)	午前	清野先生、国崎さん、KIDS・WASEND現地入り
	午後	ワークショップ2, 3, 4, 5最終チェック
8/17(金)	午前	各ワークショップ配布資料チェック
	午後	ワークショップ1(防災研修)
8/18(土)	午前	ワークショップ2(子ども防災研修)
	午後	ワークショップ3(絵本お話し会)
8/19(日)	午前	ワークショップ4(親子防災研修)
	午後	ワークショップ5(少年の主張輪島大会)
8/20(月)	午前	ワークショップ6(防災研修)
	午後	帰路

2.2 活動メンバー

氏名	所属
濱田 政則	早稲田大学理工学術院教授
宮島 昌克	金沢大学大学院自然科学研究科教授
清野 純史	京都大学工学研究科准教授
塚本 俊也	東京外国語大学大学院客員教授
国崎 信江	危機管理アドバイザー
村田 庸介	KIDS
近藤 竜平	同上
叶 明子	WASEND
加藤 一紀	同上
増子 泰亮	同上
鬼山 亮	同上

(敬称略)

3. 各ワークショップの活動記録

3. 1 ワークショップ1 ~ 防災研修 ~

文責：叶 明子 (WASEND)

日時：8月17日(金) 14:00 ~ 16:00

場所：諸岡公民館

対象：公民館の職員

1. 塚本先生による避難所運営に関するご講演
2. 宮島先生による教え方に関するご講演
3. 清野先生による教え方に関するご講演
4. 質疑応答
5. 終了



概要

1. 塚本先生によるご講演 (パワーポイント、配布資料を用いて質疑を交えながら)

自己紹介を兼ねて、阪神淡路大震災におけるボランティア派遣の話

配布資料「避難所運営に関する留意事項と提言」を用いて避難所を運営する際に留意すべき事項の確認

自治体の人は人を動かすコーディネーターになってほしい

避難所運営で困ったことは? という問いに対しては「職員の血圧が異常にたかくなってしまった」という解答があった

自治体として用意すべきマニュアルについて

よければ今回の配布資料をそのまま活用してほしい

マニュアル作成ポイントとしてはお年寄りにもわかりやすいように図入りのものがよい

2. 宮島先生によるご講演 (実際に富山県でのご講演で使用したパワーポイントを用いて)

災害事例を写真で紹介

石川県でも起こることを説明

地震の発生確率と、火事や交通事故の発生確率の比較よりおこりやすさを認識してもらう。地震の周期等理論的に説明をする。

石川県で起こったらどうなるか、災害事例を交えながら説明

講演も後半にさしかかり、退屈を避けるために、津波被害の動画を用い現実味をもってもらう

どう対策したらいいか

家具の配置や固定の仕方

3. 清野先生によるご講演 (パワーポイントを用いて職員の方にも参加していただく形式)

地震のメカニズムの教え方 職員の方による実演

プレートの動きの教え方 職員の方による実演
地震の発生の仕方の教え方 職員の方による実演
津波の発生の仕方の教え方
避難する際の注意事項
家庭での対策の仕方

4. 質疑応答

陸の内部や海の中で km とでるが、見たことがないのになぜ断層の場所がわかるのか？

航空写真のずれをみてわかる。見る人がみればわかる。

雲が流れる、なますが暴れる等の話の信憑性は？

それらの行動が毎回起こるわけではないので、科学的な証明とはいえない。

震源地がわかるのはなぜ？

GPS やカーナビと同じ原理で、地震波の到達時間の差から計算できる。

今回の地震は、公民館で子供の体験学習（ぞうきん作り）を行っている際に、どん、と揺れがおきた。この子供たちはいつ外に出していいのか？後に、参加者のある子供の母親から、「4人も子供がいるのでもし、4人とも家にいたら誰かが怪我をしていたと思う。」と言われた。

建物の耐震性があるなら建物内の安全な場所へ、耐震性がないなら外へ。

良かった点

- ・職員の方が積極的に参加，質問していただけた。
- ・時間，人数もちょうど良く，実際に避難所運営に関わった方々からの反応はとても良かった。
- ・地域コミュニティの大切さが伝わった。
- ・実際に避難所運営を経験して困ったことなどをたくさん聞くことが出来た。

改善点

機材や配布資料の不足によって，開始時間の遅れ，進行順序の変更が起きてしまったので，事前の準備確認をしっかり行うべきだった。

3.2 ワークショップ2 ~ 輪島公民館 子ども防災研修 ~

文責：村田 庸介 (KIDS)

日時：8月18日(土) 9:00~12:30

場所：輪島公民館

司会：鬼山 亮 (WASEND)

対象：河合小学校の生徒 19人

タイムテーブル：

時間	概要	内容
9:00~10:00	館長のお話	・館長から子どもたちへあいさつ
	KIDS、WASENDの紹介	・KIDS、WASEND、子ども達の自己紹介
	防災まち歩きへの導入	・街中の危険想定(大ちゃんのまち歩き) ・防災まち歩きの意義説明 ・まち歩きに際する注意事項説明
10:00~11:00	防災まち歩き	・4グループに分かれ、実際にまち歩き
11:00~12:30	防災マップ作り	・防災マップの作り方説明 ・防災マップ作成 ・各グループ、まち歩きの発表 ・まとめ

活動写真：



まち歩きの説明



まち歩き風景



防災マップづくり



まち歩き発表

良かった点：

- ・ 現地で手伝ってくれた大学生のおかげで、各グループにおいて、子ども達の面倒がみやすくなった。
- ・ まち歩きルートに異なった3つのルートを設定したことにより、よりバリエーションのある防災マップが完成した。
- ・ 一部のグループでは、子ども達全員を写真に写らせるなど、危険管理方法がうまく機能していた。

改善点：

- ・ WSの準備（まちの下見など）に十分な時間をかけることができなかった。
- ・ まち歩きの際、帰着遅延の報告が無かった。
- ・ 途中集中力がきれ、子ども達が騒ぎ出す場面があり、授業にメリハリをつけるなど、テンションを持続させる何らかの方法が必要だった。
- ・ より徹底した体調の管理方法が求められた。
- ・ タイムテーブルの管理ができず、ふれあいタイムの時間をとることができなくなった。

3.3 ワークショップ3 ~ 輪島市立図書館絵本お話し会 ~

文責：鬼山 亮 (WASEND)

日時：8月18日(土) 14:00 ~ 15:00

場所：輪島市立図書館

司会：叶 明子 (WASEND)

対象：輪島市内の幼稚園，保育園生及びその兄弟，両親

概要：絵本を使うことで小さい子にわかりやすく防災の知識を伝える
楽しみながら学ぶことで防災の意識を高めてもらう

1. 図書館長よりご挨拶
2. 濱田先生よりご挨拶
3. 国崎さんによる絵本「そなえる」読み聞かせ
4. KIDSの二人によるダンゴムシのポーズ、歌遊び
5. 包帯巻き取り、メッセージ書き
...完成した包帯は備蓄倉庫に保管
6. 終了

良かった点

- ・ 包帯にメッセージを書いたことで、次に震災に遭ったときにケガをした人を励ますことが出来る。また、子供たちの明るい絵やメッセージを見て、図書館の人たちがすごく元気づけられたようで非常に良かった。
- ・ 歌遊びをやったことで子供たちが飽きずに参加してくれた。
- ・ 子供たちの母親がほとんど参加してくれて、防災の意識の高さが伺えた。包帯巻き取りも全員が体験してくれて、もしまた震災が起きたときには是非役立てて欲しい。

改善点

WS3においてはなかったと思う。時間や人数もちょうどよく、次回も同じように行いたい。

3. 4ワークショップ4～大屋公民館親子防災教育研修～

文責：近藤 竜平（KIDS）

日時：8月19日(日) 9:00～11:00

場所：大屋公民館

司会：増子 泰亮（WASEND）

対象：30名（家族10組 高校生2名）

概要：わが家の防災マニュアルを家庭ごとに作成してもらう。

マニュアルを家に持ち帰り，家族全員で話してもらい，家族を大切にする気持ちが重要であることも伝える。

1. 大屋公民館館長よりご挨拶
2. わが家の防災マニュアル作り
 - ・国崎氏による防災マニュアル作りに関する説明
 - ・増子氏（WASEND）による地震発生メカニズムの説明
 - ・各家族による防災マニュアル作り
3. 叶氏（WASEND）による防災クイズ
4. レクリエーション
 - ・村田氏，近藤氏（KIDS）によるダンゴ虫のポーズ，歌遊び
 - ・伝言ゲーム
5. 終了

活動写真



国崎氏による説明



防災マニュアル作り



防災クイズ



レクリエーション

良かった点

- ・ 親と子が一緒に防災について考えるよい機会になり，災害に遭遇した際の避難場所や連絡先の確認ができた．
- ・ マニュアル作成に関しては，項目毎に国崎氏の説明 作成という手順であったため，各家族がスムーズに行えた．また，各グループにおいてサポートを行った学生の役割は，WSを進める上で大きかったと思う．
- ・ 防災クイズは，常識的な内容から考える内容のものまであり，難易度も適当であったためか，子供たちも積極的に参加してくれたように感じた．
- ・ ダンゴ虫のポーズでは，親子で楽しく体を守るポーズを学習できた．
- ・ 予定終了時間通りに無事終了した．

改善点

- ・ レクリエーションとしての伝言ゲームは，伝言の内容が多少難しかった．そのため，進行はスムーズであったが，急遽，伝言内容を変更することとなった．次回から伝言ゲームを行う際は，内容について対象を把握した上で慎重に考える必要がある．

3.5 ワークショップ5 ～少年の主張輪島大会～

文責：増子 泰亮（WASEND）

【はじめに】

ワークショップ5では少年の主張輪島大会の審査時間中に、早稲田大学理工学術院教授の濱田政則教授による講演，KIDS・WASENDのそれぞれの代表による団体の活動紹介を行った。

【日時、場所】

2007,8,19（日） 13:00～16:15 輪島市文化会館3階大会議室

【全体の予定】

時刻	次第
13:30	少年の主張輪島大会開始
15:00	濱田教授による講演
15:30	KIDSによる活動紹介
15:45	WASENDによる活動紹介
16:00	少年の主張輪島大会結果発表

【活動メンバー】

KIDS代表	村田庸介
WASEND代表	加藤一紀

【活動記録】

我々の発表の前に、現地の中学生による“少年の主張輪島大会”が行われた。同年3月に起きた能登半島地震の影響もあってか発表者11人中4人が地震災害に関係する内容であった。どの学生の発表をとっても中学生とは思えないほど力強いものであった。



少年の主張の審査時間中に濱田教授による講演「地震災害を防ぐために」が行われた。内容は主に日本で起こりやすい自然災害の紹介や自然災害軽減のための国や自治体の体制の説明などであった。海底の断層の調査方法など、貴重な話を伺うことができた。



次にK I D S 代表の村田による15分間の活動内容の発表が為された。K I D S の団体紹介の後、今回の輪島のワークショップの活動を発表し、ワークショップ2で輪島の子供たちと共同で作上げた防災マップも公開した。最後にW A S E N D 代表の加藤による発表が行われた。団体紹介や普段子供たちの授業で使用している教材の紹介など、防災教育の重要性を訴えた。



【まとめ】

少年の主張に関しては本当に素晴らしいものであったと思う。中学生とは思えないほど落ちついてはきはきとした発表であった。一方、我々の発表に関しては、発表そのものはミスがなく素晴らしいものであったが、濱田教授の発表とあわせてちょうど1時間という長い時間がネックとなり、聴衆にあまりいい印象が与えられなかったようだ。しかし、審査時間の埋め合わせという役目は立派に果たせた用に思える。改善すべき点をあげるとしたら、時間調整や気分転換の要素を入れるなどの全体の流れの枠組みだろう。

3.6 ワークショップ6 ~ 防災研修 ~

文責：加藤 一紀 (WASEND)

日時：8月20日(月) 10:00~12:00

場所：輪島市教育研究所

対象：地元の小中学校の先生



1. 塚本先生による学校の危機管理に関するご講演
2. 塚本先生によるトラウマに関するご講演
3. まとめ
4. 講義全体の質疑応答
5. 終了

概要

1. 塚本先生による学校の危機管理に関するご講演（事前のアンケート結果を基にパワーポイント、配布資料を用いて質疑を交えながら）

自己紹介を兼ねて、地震災害や緊急救援、紛争地での活動の話

世界的な格差をりんごを使って授業するなど体験させる事と、child to child method 教育が大切である。

事前のアンケート結果に基づいて今後の危機管理マニュアルに関しての提言

- ・震災前と後で新たに地震対策を行うようになった人が3人
また起こるとは思わない意識に落とし穴がある。
- ・危機管理マニュアルは作ってあったものの半数が機能してなかったと実感
教師1人1人が何をするのか明確にすべきで、それゆえ教師が変わるたびにマニュアルを変えていくべき。
生徒が学校にいない時の場合も考慮して作製すべき。
学校周辺の危険箇所の把握。
東京都の危機管理マニュアルなどを参考にすると良い。
- ・一部で連絡網が機能しなかった
通信施設のマヒや、電話が通じない場合の連絡体制についてもマニュアルに盛り込むと良い。
実際に体験した立場からの意見
- ・これまでの避難訓練を振り返り、地震を経験して放送設備は使えたのか、放送担当は決めていたがその担当者が実際に放送できたのかを考えると難しい。
- ・普段の業務が多忙で、重要性をわかっているにもかかわらず来るとはわからないものに、時間を割けない。危機管理マニュアルにしても、作製しても避難のときに持ち出せないし覚えていない。
- ・体育館で地震が起きたとき、真ん中に集めるようにしていたが、他の学校では真ん中に物が落ちた。ガラスが強化ガラスなので、かえって端に避難させた方がよいと思った。

質疑応答

- ・次起きた時どうするか？

地区住民の安否確認，親子や学校と親の連携について学校で話し，記録しマニュアルに
いかし，次に備える．

体育館の中央が危なかったなど，経験して見えてきたことをマニュアルにいかしていく．

2．塚本先生によるトラウマに関するご講演（パワーポイント，配布資料を用いて質疑応 答を交えながら）

ショックから数日後，1週間後，1ヶ月後の表面化する症状について

わずか1ヶ月でPTSD（心的外傷後ストレス障害）の危険性があるので早めに対処．

子どもの対応におられる大人にも当てはまる．

ショック状態を長く続かせないために環境を変える方法もある．

年齢別の症状と対応方法について

意見交換

- ・カウンセラーや臨床士にみてもらっていた
- ・カウセルのたびによくなっていた
- ・親へのカウセルが大事と感じた

カウンセラーが入れば3ヶ月で状態が好転してくる．

しなければ要注意．早めの対応が大切で，変化をキャッチすることが教師に求められる．

子どもに社会活動への参加を勧める．一方で，参加しやすいように教師や親もボランテ
ィアに参加していることが望ましい．

実際に体験した立場からの意見

- ・子どものトラウマは，学校での態度が普段と変わらないので親に聞くまで気づかないこ
ともある．
- ・生徒が，学校を休みがちになった．
- ・自分の部屋で寝られず，しばらく親と一緒に寝ていた．
- ・トイレで被災した子どもは，トイレに行くとき親にそばにいてほしいとせがむ．
- ・2階で被災した子どもは，しばらく2階にいけなくなった．

3．まとめ

自助・共助・公助

自助・共助・公助の円の交わった所に安全な環境が生まれる．

阪神淡路大震災での出来事

高齢者の住むマンションまで水を運んでも，高層階まで水を運ぶ人がいなかった．

子どもの参加で復興を通して，街の一員であることを意識させる．

体験の記録と新たなマニュアル作り

精神的なショックを受けた後の基本的な対応の原則

4. 講義全体の質疑応答

参加者からの質問

- ・ 関東大震災や阪神淡路大震災は干支が同じだが、周期のようなものはあるのか？
全ての地震を予知することは不可能で、M7以下の地震の痕跡は発見しづらい。断層の発見から余地を期待するよりもどこでも起きるものという意識で備えるべき（濱田先生）
濱田先生からの提案
体験の伝承と、若い人が子どもに教える大切さと、その活動を継続させること。
災害の文集を作成すれば、次の子ども達がそれを読むことで伝承されていく。
- ・ 国崎さんからの避難所での子どもの対応に関する提案
世界中の被災した子どもの声を集めていきたい。
被災した翌日から実施できるような日常生活からかけ離れない、避難所での子どものプログラムの考案。
被災後の子どもは何か書き留めたかったり表現したい。そのために紙と筆記用具の用意をして欲しい。
子どもにもコミュニティがあるので、子どもならすぐに誰とでも仲良くなれるという概念を固定せず、学区の異なる子ども同士が仲良く過ごせる取組みを考案してもらいたい。
子どもにとっては友達の安否や、先生の顔を見ることが安心に繋がる。それを考え先生が行動して欲しい。

良かった点

- ・ 地震が起きてから参加者が災害についての話し合いをする機会があまりなかったようで、被災時の対応を振り返るという意味で有意義な時間が作れた。
- ・ 塚本先生の講義が、実際に現場で見られたこととかなり一致していたようで、参加者も信頼して講義を聴く事ができた。
- ・ アンケート結果を用いることで身近な問題として感じてもらえた。
- ・ 避難所運営や、トラウマに関する資料を提供した。
- ・ 一方通行ではない双方向なワークショップであった。

改善点

- ・ 災害対応の重要性がわかっているにもかかわらず、学校の先生の普段の業務に加えて何かをするのが大変であるという意見があり、本格的なマニュアル作製にいたるのが不透明であった。
- ・ 体験を振り返る場としては良かったが、マニュアル作製に関する質疑応答などが活発でなかったところに事前の調整を行う時間の必要性を感じた。

4．総括と今後の課題

今回のワークショップでは、公民館職員、親子、教職員と対象が多岐にわたる中でそれぞれに研修内容が異なったために、輪島市教育委員会の希望に沿ったプログラムの策定、資料の作成、人材の選定など限られた時間の中で厳しい局面もあった。しかし個々が可能な限りこれまでの経験や英知を集積し責務を果たしたことで、期待以上の評価をいただくことができた。

最終日前日の新様との意見交換会では、来年、再来年と継続を希望しているが全く同じ内容でなく、ステップアップしていけるようなものであるといい。具体的には、公民館職員が講師として防災教育が実施できるように指導してほしい。特に今回のワークショップではパワーポイントを多用しており、パソコンなどの機器を用いた資料を一から作製するのは高度であり、今回のワークショップの内容を一度で覚えるのは難しいと感じた。これらの感想を受けて、防災教育を継続して実施していただけるような仕組みを意識した支援を考える必要があると思う。次年度までの間には、メールでのやりとりを中心に情報提供、講師からの指導などを行なっていきたい。

5．大学生からの謝辞

今回私たちWASENDおよびKIDSの学生に対して、このような防災教育活動の場を提供して下さった早稲田大学理工学部・濱田政則教授、ならびに輪島市教育委員会の新雅基様に深く感謝いたします。

特に新様には、各ワークショップの手配のみならず旅館や食事処、移動手段の確保、更に私たち学生の希望としてあげさせていただいた防災倉庫や、仮設住宅見学に至るまで手配していただき、ありがとうございました。

また2007年7月から本活動の準備を本格的に進めるにあたり、試験期間と重複していた関係で、教材準備の進行に影響がでてしまい、7月下旬から実施直前までの慌しい雰囲気の中で、私たち学生に対して熱心な御指導・御助言に加え、本活動のコーディネートをしていただきました危機管理アドバイザーの国崎信江様、実施直前のメール環境のトラブルの中で現地での機材の手配や、ワークショップ2のボランティアの学生の手配、土蔵修復現場の見学の手配、KIDSの移動等のサポートならびに、事前準備からの御助言・御指導いただきました塚本俊也様に深く感謝いたします。

その他、ワークショップ1を勤められました宮島昌克教授、清野純史准教授には、学生担当部分のワークショップ2に関して貴重なアドバイスをいただきましたことに対してお礼申し上げます。

本活動で、学生が手配すべき配布資料や機材、またワークショップにて力不足の部分を補っていただくなど関係者の皆様にはご迷惑をおかけしましたことをここにお詫び申し上げます。特に輪島市教育委員会の職員の方には多大なお力を貸していただきました。職員の方々の協力なしにはここまで成し遂げられなかったことを申し上げますと共に特にお世話になりました細谷樹史様、山田祥子様にご学生一同感謝いたします。

最後になりましたが、今回の活動の事業費を提供していただきました、特定非営利法人(NPO)国境なき技師団に対して深く感謝すると共に、学生の私たちにこのような貴重な体験・活動を提供していただきました関係者の皆様に対して厚くお礼申し上げます。

今回の活動全体を通して見たり、聞いたり、感じた事や、ワークショップから得た改善点などを次の活動にいかしながらより良い防災教育を目指すとともに、WASENDとKIDSが今後も活動をする上で協力しながら、防災教育の継続と同時に、他の大学生への“若者ネットワーク”への呼びかけを行いながら、防災教育を広めていく所存ですので、今後とも御指導・御助言の程、よろしくお願い致します。